

令和2年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

- 1 生徒一人ひとりの持てる力を最大限に引き出す学校
- 2 希望する進路が実現できる学校
- 3 社会人として通用するマナーと社会人基礎力（考え抜く力、行動する力、コミュニケーション力）が獲得できる学校
- 4 質の高い教育により、人間性豊かな人材を育成する学校
- 5 生徒及び保護者が「入学して（入学させて）良かった」と思える学校

2 中期的目標

<※令和2年度からの3か年目標>

1 基本的な生活習慣を自らコントロールできる生徒の育成 — 生徒指導の充実 —

- (1) あいさつ運動や生徒との対話を重視し、安心して学習に臨み、かつ魅力のある学校づくりをめざす。
- (2) 社会人として通用するルールやマナーについて、自ら考え自ら行動できる生徒の育成をめざす。
- (3) 生徒個々のニーズに寄り添い、生徒が相談しやすい生徒指導体制をめざす。

※学校教育自己診断(生徒対象)の「学校生活についての教員の指導」に関する項目で満足度を毎年2%引き上げ、令和4年度には65%にする。

(H29 63%, H30 61%, R1 59%, R2 67%)

2 夢や目標に向かって自ら努力できる生徒の育成 — 進路指導の充実 —

- (1) 現行の「3年間を見通した進路指導」を発展させ、新しい教育システムに適合したキャリア教育指導を再構築する。
- (2) 新学習指導要領に基づいた教育課程の編成を通じて現行の授業内容も見直し、より個々の進路希望に対応できるような授業の質の向上をめざす。
- (3) 将来教員を志望する生徒のための「教職トライコース」の教育課程実施に向けた準備を行う。令和3年度よりコース開始。
- (4) 各教科の指導内容と進路実現との関係性を重視し、教科間の意思疎通を図りながら、相互補完的な学習指導を構築する。
- (5) ICT機器の活用や研究発表活動、アクティブラーニングの機会を増やすことによって、生徒の学習意欲や自己表現力の向上をめざす。
- (6) 生徒個々の学力測定を綿密に行い、計画的な学習スケジュールを提供し、家庭学習の定着化を図る。
- (7) 外国語学習や国際交流を通じて、国際社会の一員としての自己実現をめざす。

【進路成果指標】3年生時点における第1志望大学の合格率90%以上(R1 64.9%, R2 70.0%)。

国公立大学及び難関私立大学合格者数の合計15人以上。(R1 10人, R2 1人)

※学校教育自己診断(生徒対象)の「進路実現に関する項目」で満足度を毎年2%引き上げ、令和4年度には89%にする。

(H29 82%, H30 85%, R1 83%, R2 88%)

3 文化・芸術・スポーツを愛し、心豊かな感性を持つ生徒の育成 — 特別活動の充実 —

- (1) 行事や特別活動を通じ、生徒が自主的・主体的に参加できるような土壌を育成する。
- (2) 行事や特別活動を通じ、プレゼンテーション能力の向上をめざす。
- (3) クラス活動等の活性化から学校行事の質を向上させ、生徒の自己有用感の育成を図る。

※行事やホームルーム活動等の満足度を毎年2%引き上げ、令和4年度には行事65%、HR73%にする。

(H29 行事 59%, HR63%, H30 行事 49%, HR60%, R1 行事 59%, HR67%, R2 行事 68%, HR73%)

4 地域や社会で貢献できるボランティア精神を持つ生徒の育成 — 地域連携の充実 —

- (1) 生徒会などと連携し、学校広報活動(学校見学会、体験入学等)や学校行事への生徒の主体的な参加を推進する。
- (2) 「地域との連携」の中から、生徒の自己有用意識を高めるため、地域のイベントや清掃活動等への生徒の参加機会を増やす。
- (3) ホームページ等での情報発信力を高め、保護者や地域とのより綿密な連携を構築する。

※生徒が主体的に参加する学校説明会やボランティア活動の参加者を毎年増員し、令和4年度には450人にする。(H29 400人, H30 460人, R1 300人)

5 人の立場に立って考えることの出来る豊かな人権感覚を持つ生徒の育成 — 人権教育の充実 —

- (1) 安全安心な学校づくりの観点から、「人権教育基本方針」や「人権教育推進プラン」等に基づき、差別を許さない力と意志を持った生徒の育成をめざす。
- (2) 相談体制を高め、様々な課題を抱える生徒のサポートに対応するための環境整備を充実させる。
- (3) 知的障がい生徒自立支援コースの生徒に「ともに学びともに育つ」教育を実践する中で、全校生との人権意識の向上をめざす。

※学校教育自己診断(生徒対象)の「人権教育等に関する項目」で満足度を毎年2%引き上げ、令和4年度には79%にする。

(H29 70%, H30 75%, R1 73%, R2 72%)

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [令和3年1月実施分]	学校運営協議会からの意見
<p>【学校満足度】</p> <p>・生徒の学校満足度は昨年度より4ポイント上昇。例年、学年が進むにつれて満足度は高くなる傾向にあるが、今年度は1年生の満足度が例年に比べて高かった。保護者の学校満足度も昨年度より4ポイント上昇で8割超を維持。</p> <p>【生徒指導】</p> <p>・生徒向け診断「学校生活についての教員の指導」は昨年度より8ポイント上昇。また、保護者向け診断「生徒指導・教育相談」が昨年度より12ポイント上昇。教職員向け診断「家庭への連絡」が9割超、昨年度より11ポイント上昇。日頃の生活指導やその後のフォローの結果が表れていると考えられる。</p> <p>【進路指導】</p> <p>・生徒向け診断「進路実現に向けての指導」は昨年度より6ポイント上昇。保護者向け診断でも8割超、教職員向け診断でも9割超を維持。</p> <p>・生徒向け診断「ICT機器の授業等での活用」は昨年度より18ポイント上昇。教職員向け診断でも7ポイント上昇。今年度全ホームルーム教室等に電子黒板とプロジェクタが整備され、活用が進んだ。</p> <p>【特別活動】</p> <p>・生徒向け診断で行事満足度は昨年度より9ポイント、ホームルーム等満足度は昨年度より6ポイント上昇。コロナ禍の中でも体育大会・文化祭</p>	<p>【第1回：7月14日】</p> <p>① 学校経営計画より</p> <ul style="list-style-type: none"> ・電子黒板について、現場の教員の意見を聴取し、改良点を取りまとめることも必要。 ・「勉強クラブ」という発想は面白い。例えば、「英語クラブ」「数学クラブ」など授業とは違う部活動を発足してはどうか。 ・携帯電話の指導では、生徒からの意見を踏まえ、納得感のある指導につなげている。携帯は弊害もあるが、その危険性を教えたうえで上手に利用させる指導も肝要だ。 ・大阪教育大学と効果的な連携を取りながら、生徒への支援につなげると良い。新たに立ち上げる「教職トライコース」は、各教科科目の「基礎・基本」を十分学習させ、同時に特定科目の専門性を高める内容にすることが大切。新コース設置の参考にしてほしい。 ・同時に、「哲学」や「心理学」の内容も加味するのも良いのではないかと。 ・生徒は、教えることでより深く学ぶことができる。学習にICT等を活用した方法を取り入れることは、生徒の学びを伸ばすことになる。 ・「意見箱」をより活用するため、1月に1回必ず投函するよう呼びかける方法もある。 ・「海外語学研修」が成立しなかったことは残念だが、来年度実施に向けて頑張ってほしい。 <p>② 次年度採用予定の教科書の紹介 ・興味深い教科書であり、内容も適切だ。</p> <p>③ 校内の授業見学</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「良く授業を聞いている。」「電子黒板を上手く活用している」 ・会議室の電子黒板には「様々な授業展開の可能性に期待する」 <p>【第2回：12月8日】</p> <p>① 「学校経営計画」進捗状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校行事や生徒会の動きから、いろんなことを自分たちでやっつけていこうとする姿がある。

<p>等を工夫して実施できたことが影響していると考えられる。</p> <p>【その他】</p> <ul style="list-style-type: none"> 保護者向け診断「教育情報の提供努力」が昨年度より8ポイント、「学校ホームページの閲覧」が18ポイント、「部活動の積極的な取り組み」が14ポイント上昇。 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒が中心となって頑張っている。 <p>② 第1回授業アンケートより</p> <ul style="list-style-type: none"> 生徒からの評価なので、教師の要求水準と生徒の要求水準が違っていると、授業についての先生の自己評価と隔たりが出る。「自分はやっているのに生徒の出来が悪い」となる。先生と生徒が授業で何をどこまで求めるのかを共有することが必要。 評価がいいからよい授業であるとは限らない。 生徒には授業を大切にほしい。授業の基本は教科書だと考える。 教科書の使い方は教員によって様々で、一概に教科書だけをしっかりとやればよいというのは難しい。 副教材の点検も必要だと思う。 <p>③ その他：新型コロナウイルスの影響について</p> <ul style="list-style-type: none"> 先輩が頑張っている姿を見せなければ、後輩が育たない。 上級生と下級生の人間関係が薄いとトラブルにつながることもある。 コロナ禍で何事にも委縮しつつある中で生徒がよく頑張っている。何ができるかを考える生徒たちの姿が素晴らしい。 子どもの「やりたい」という芽を摘まないよう、できるかぎりやってほしい。 <p>【第3回：2月22日】</p> <p>① 学校自己診断の結果について</p> <ul style="list-style-type: none"> 生徒指導、進路指導、ICT活用、行事満足度等の結果が昨年度より上昇しており、学校の効果的な取り組みを感じる。 学校満足度は卒業時80ポイント超をめざしてほしい。学年別の傾向についても分析を。 家庭学習の項目は例年学年進行に伴って上昇傾向。そうでない場合は分析も必要。 家庭学習の定着には中学校までの学習内容の理解が必要。抽出指導や習熟度別指導等により、生徒一人ひとりに対するきめ細かい指導の継続を。 ICT機器の授業等での活用が進み、生徒・教職員に好影響。今後は設備面に加え学校の様々な魅力が入学前の中学生等にも伝わるよう、情報発信の更なる工夫が必要。 <p>② 学校経営計画について（令和3年度に向けて）</p> <ul style="list-style-type: none"> 教職トライ専門コースは公立高校であり見られない取り組み。「教職講義」ではすでに大学と連携して講師を選定済みであり、今後は授業計画の充実が期待される。一方、「教職実習」では高校生が小中学校へ実習に行くにあたり、どのような授業内容が現実的に実現可能なのか、八尾市教育委員会・近隣の小中学校等との連携・調整が不可欠。効果的な立案をお願いしたい。例えば、プレゼンテーション能力の育成するのであれば、高校生が小学生に教える経験などは効果的。ぜひ、教員の仕事の負担だけでなく、その魅力も伝わるような授業内容を工夫してほしい。
---	---

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1 生徒指導の充実	<p>(1) 生徒との対話と学校生活における満足度の向上</p> <p>(2) 社会ルールの獲得と自己表現力の育成</p> <p>(3) 生徒の立場に配慮した生徒指導の充実</p>	<p>(1) 生徒と積極的に対話を重ね、生徒が主体的に行動するよう働きかけるとともに、生徒の活躍を校内で紹介し、活気ある学校にする。</p> <p>(2) <input checked="" type="checkbox"/> 生徒が自ら考え行動するよう生徒にとって納得感のある指導を行い、自主的に社会規範を身に付けるよう計画する。 <input checked="" type="checkbox"/> 授業やHR活動にディベートなどをこれまで以上に積極的に取り入れ、生徒が自ら考え発表する機会を増加させる。</p> <p>(3) 生徒が気軽に相談できる雰囲気が高まるよう、教員のカウンセリングマインドの更なる充実に向けた研修等を実施する。</p>	<p>(1) 生徒向け学校教育自己診断における学校生活等の項目における肯定的回答の向上 ※65% (R1 63%)</p> <p>(2) <input checked="" type="checkbox"/> 生徒向け学校教育自己診断における関連項目の肯定的回答の向上 ※61% (R1 59%) <input checked="" type="checkbox"/> 生徒向け学校教育自己診断アンケートにおけるプレゼン能力の肯定的回答の向上 ※68% (R1 66%)</p> <p>(3) 学校教育自己診断における教員と生徒の距離感に関する項目での肯定的回答の向上 ※54% (R1 52%)</p>	<p>(1) 玄関に大型テレビを据え、学校行事・部活動等の記録を発信 65% (○)</p> <p>(2) <input checked="" type="checkbox"/> 社会規範を身に付けることの大切さを折に触れ説明し、指導した。67% (◎) <input checked="" type="checkbox"/> 授業や総合的な探究の授業でプレゼンの機会を設けた。64% (△)</p> <p>(3) SSWによる教員研修等を通じて向上に努めた。56% (○)</p>

府立八尾翠翔高等学校

2 進路指導の充実	<p>(1) キャリア教育指導の再構築</p> <p>(2) 授業改善に係るシステムの構築</p> <p>(3) 系統立てた教科指導の確立</p> <p>(4) 学習意欲向上と自己表現力の育成</p> <p>(5) 家庭学習の定着</p> <p>(6) 語学研修や国際交流活動の活性化</p>	<p>(1) <input type="checkbox"/> 生徒向けの進路選択及び科目選択について、個々の教員のガイダンス能力を高める。 <input type="checkbox"/> 授業や調べ学習、セミナー等において、積極的にキャリアガイダンスステーションを活用するとともに、教員が生徒と対話を重ねながら、生徒のモチベーションを維持し、個々の進路選択について支援する。 <input type="checkbox"/> 将来、教員を志望する生徒を対象とした「教職トライコース」の教育課程実施に向けた準備を行う。</p> <p>(2) 教員相互の授業見学・授業研究週間を年2回実施すると同時に、先端的な教科指導に関する研修を開催し、教員の授業力の更なる向上をめざす。</p> <p>(3) 各教科が育てたい生徒と身に付けさせたい学力を確認し、3年間の指導計画を作成する。同時に「授業改善」に向けた議論と教材の共有化を図り業務の効率化をめざす。</p> <p>(4) <input type="checkbox"/> ICT 機器や視聴覚教材を活用して授業展開に工夫を加えるなど、生徒の学習意欲向上に繋がる授業づくりを推進する。 <input type="checkbox"/> グループ学習やペア学習、研究発表などアクティブラーニングを活性化し、生徒の理解力、自己表現力の向上をめざす。</p> <p>(5) 生徒が継続的に家庭学習に取り組むために教育産業による学力検査等を利用し、個々の学力目標に向けた学習計画を作成し支援する。</p> <p>(6) 海外語学研修を計画、実施する。海外から学校訪問を希望する生徒を積極的に受け入れる。</p>	<p>(1) <input type="checkbox"/> 及び <input type="checkbox"/> ① 生徒向け学校教育自己診断における進路指導、進路ガイダンスに関する肯定的回答の向上 ※ 84% (R1 82%) ③ 卒業時の国公立大学及び難関私立大学合格者数の合計 15 人以上 (R1 10 人) <input type="checkbox"/> 2 年次の教育課程となる「教職講義」等の開講に向けて、準備と調整を行う</p> <p>(2) ① 生徒向け学校教育自己診断における授業改善に関して、肯定的回答の向上 ※69% (R1 67%) 授業アンケート全教科平均値の向上 ※ 3.22 (R1 3.18)</p> <p>(3) R1 年度 教員相互の授業見学、教員研修・教科会議 (各 2 回) 「勉強クラブ」(R1 末設置)の運営。 教材の共有化について教員が「自己申告票」に各自記載。</p> <p>(4) <input type="checkbox"/> 生徒向け学校教育自己診断における ICT 機器に関する項目の肯定的回答の向上 ※73% (R1 71%) <input type="checkbox"/> 会議室 (ICT 機器導入) や電子黒板の積極的な活用。 ※活用率 (70%/全教員) 会議室の ICT 機器活用で会議のペーパーレス化を図る。</p> <p>(5) 生徒向け学校教育自己診断における家庭学習状況に関する項目における肯定的回答の向上 ※54% (R1 52%)</p> <p>(6) 海外語学研修の実施。参加者 25 人目標。(令和元年度実施せず)</p>	<p>(1) <input type="checkbox"/> 及び <input type="checkbox"/> ① 目標値は達成したが、ガイダンスステーションの活用については工夫が必要。84% (○) ② 1 人 (△) <input type="checkbox"/> 「教育講義」年間予定に基づき、大阪教育大学等 9 大学の講師が決定。(○)</p> <p>(2) 教員相互の授業見学週間 (11 月) を設けた。電子黒板活用研修を実施。75% (○) 授業アンケート全教科平均 3.26 (○)</p> <p>(3) 「勉強クラブ」を 1 年間運営。顧問教員が付添い、数名の生徒が参加。 教材の共有化について各教員が「自己申告書」に記載。(○)</p> <p>(4) <input type="checkbox"/> 電子黒板活用に向け研修を実施。89% (◎) <input type="checkbox"/> ICT 環境の整備を進め、積極的な活用を図った。電子黒板活用率 (75%/全教員) (○) 会議のペーパーレス化を進めていきたい。</p> <p>(5) 学力検査や週 2 回の朝の小テストを通じて家庭学習の定着を図った。47% (△)</p> <p>(6) 新型コロナウイルスの影響により海外語学研修は実施せず。(一)</p>
3 特別活動の充実	<p>(1) 生徒の主体的な活動の活性化</p> <p>(2) プレゼンテーション能力の育成</p> <p>(3) ホームルーム活動の活発化</p>	<p>(1) 学校行事等の企画・運営段階からの生徒の積極参加を促し、生徒が自ら運営し実現したという達成感を獲得できるようにする。</p> <p>(2) 学校行事や総合学習における生徒のプレゼンテーションの機会を増やす。</p> <p>(3) 対話的・主体的なホームルーム活動を行い、生徒会活動や部活動を中心に、生徒の意見を吸い上げ、その活性化を図る</p>	<p>(1) 学校教育自己診断アンケートにおける肯定的回答の向上 ※61% (R1 59%)</p> <p>(2) 学校教育自己診断での、プレゼン機会の肯定的回答の向上 ※68% (R1 66%)</p> <p>(3) 「意見箱」の意見を反映 部活動参加率 ※58% (R1 56%)</p>	<p>(1) 体育祭・文化祭で生徒の意見を反映して実施。68% (◎)</p> <p>(2) 授業等でプレゼン機会を積極的に取り入れたが、さらなる取り組みの推進が必要。64% (△)</p> <p>(3) 学校行事で「意見箱」の意見を反映。部活動参加率 64% (○)</p>
4 地域連携の充実	<p>(1) 学校広報活動の推進</p> <p>(2) 生徒による地域進出の推進</p> <p>(3) 情報発信力の再構築</p> <p>(4) 大阪教育大学との連携</p>	<p>(1) 学校説明会や体験入学、中学校への学校案内における生徒主体の広報活動を展開する。大教大と連携して新学校紹介リーフレットを作成</p> <p>(2) 曙川東地区等の清掃活動や、地域の保育園・高齢者福祉施設等と連携した生徒の活動を増やし、愛される学校をめざす。</p> <p>(3) 本校の取り組みを、ホームページ等を活用し、積極的に発信する。地元中学校との連携強化を図る。</p> <p>(4) 大教大との連携のあり方について検討。大教大主催の教員志望者プログラムへの参加を積極的に薦める</p>	<p>(1) 広報活動への生徒参加者数 ※R2 370 人目標 (R1 延べ 361 人) ポスターやリーフレットを八尾・柏原・東大阪市中学校を中心に広く配布</p> <p>(2) 地域のボランティアへの参加者数 ※R2 延べ 350 人 (R1 延べ 300 人)</p> <p>(3) HP のブログ更新 50 回/年、学校説明会参加者数 延べ 550 人目標、地元中学 3 年生を本校に招く「翠翔 day」開催</p> <p>(4) 連携メニューの課題等整理し、両校生徒にとって意義のある連携のあり方について検討する。 「教師まっすぐ」への参加者数 10 人目標</p>	<p>(1) 新型コロナウイルスの影響で学校説明会・体験入学会での生徒の参加を極力控えた。ポスター・リーフレットを作成し配布した。(○)</p> <p>(2) 新型コロナウイルスの影響により、地域ボランティア活動は今年度見送った。(一)</p> <p>(3) ブログ更新 120 回 (2 月現在) 学校説明会参加者数 427 人 (1 月) 「翠翔 day」は見送り。(○)</p> <p>(4) 連携について校内で検討。メニューの整理を行った。「教師まっすぐ」参加者 7 人 (△)</p>
5 人権教育の充実	<p>(1) 安全安心な学校作りの推進</p> <p>(2) 生徒相談体制の環境整備</p> <p>(3) 自立支援コース生徒との交流促進</p>	<p>(1) 不登校や問題事象の兆候を感知できる教員力の強化とともに、いじめに対しては、早期発見に努めるとともに、事象に対しては、組織的に迅速な対応を行う。</p> <p>(2) 様々な相談に対応できるように、関係教員のスキルアップを図ると同時に、発達障がい等に対するケアについても的確に指導できる体制を構築する。</p> <p>(3) 自立支援コース生徒への教育活動を通じた「ともに学び、ともに育つ」教育の一層の充実。生徒の自己肯定感の育成とともに、コース生以外の生徒との協働作業を通じて相互理解を深め、信頼し励ましあう関係を作る。</p>	<p>(1) 生徒向け学校教育自己診断の人権意識に関する項目での肯定的回答の向上 ※75% (R1 73%) いじめに関するアンケートを年 1 回実施</p> <p>(2) 生徒向け学校教育自己診断の教育相談等の項目における肯定的回答の向上 ※51% (R1 49%)</p> <p>(3) 生徒向け学校教育自己診断の人権意識に関する項目での肯定的回答の向上 ※R1 年度 73% → 75% 目標 自立支援・共生推進卒業生アンケートにおいて同級生の肯定的回答の向上</p>	<p>(1) いじめ等人権に係る問題事象の兆候を見逃さず対応するよう心掛けた。72% (△)</p> <p>(2) 定期的にサポート委員会を開くなど生徒状況の共有とサポート体制構築に努めた。56% (○)</p> <p>(3) 学校行事等での協働作業を通じて相互理解は深まっている。79% (○)</p>